

歴史資料文書注目情報

「木炭ガス発生装置及び木炭ガスで走る車関係の歴史資料文書」

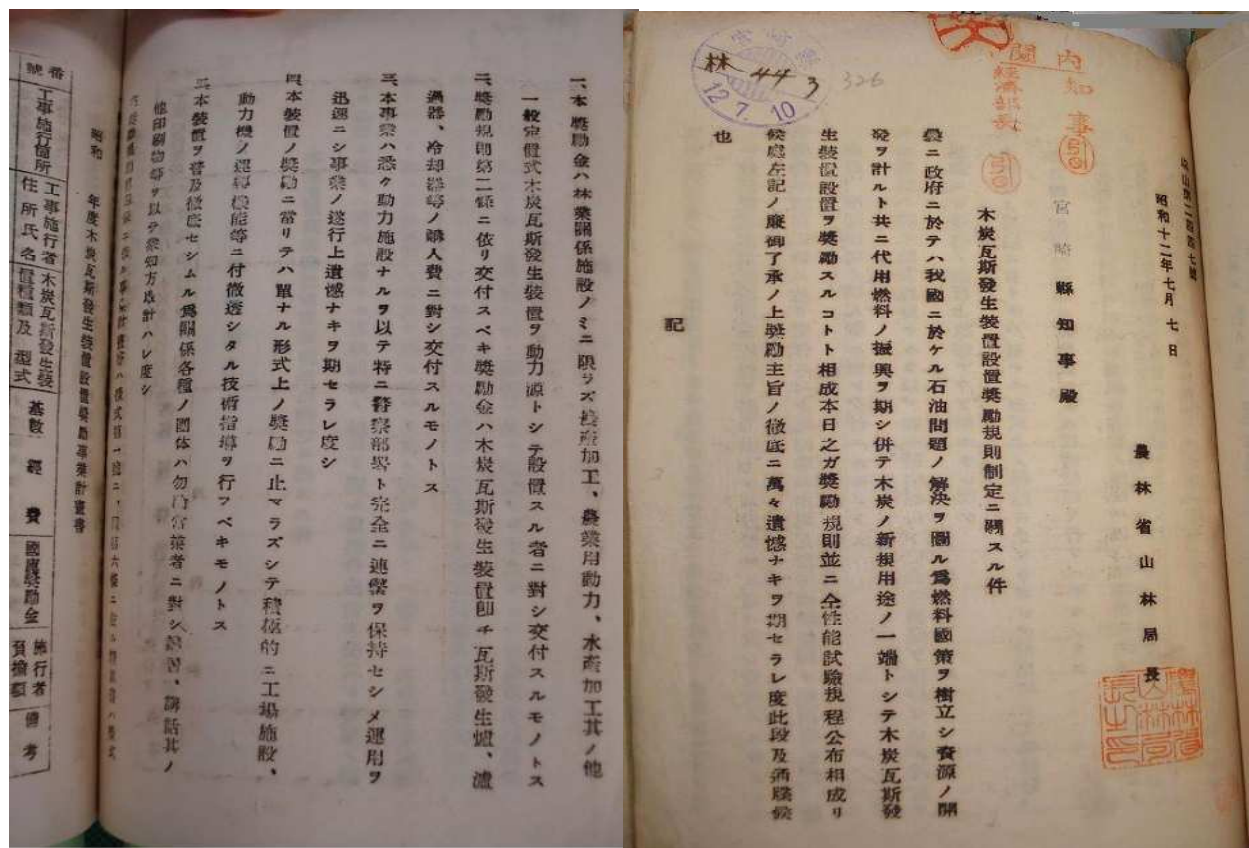
昭和10年代から20年代にかけて、木炭ガスで走るバスや発動機等が普及しましたが、このことに関する文書がありますので、紹介します。

昭和12年当時、石油の消費量が増しており、特にガソリンの消費は、自動車交通や航空機の発達などで年々増加傾向にありましたが、石油資源に乏しい日本は、需要の大半を外国からの輸入に頼っていたため、有事で石油が思うように輸入できなくなった場合、産業・交通の活動が不能となり、軍事上の活動にも障害を及ぼす懸念がありました。

そこで、国が行ったのが「木炭ガス発生装置の普及奨励事業」です。

木炭ガス発生装置の設置を奨励し、奨励金交付も行われました。

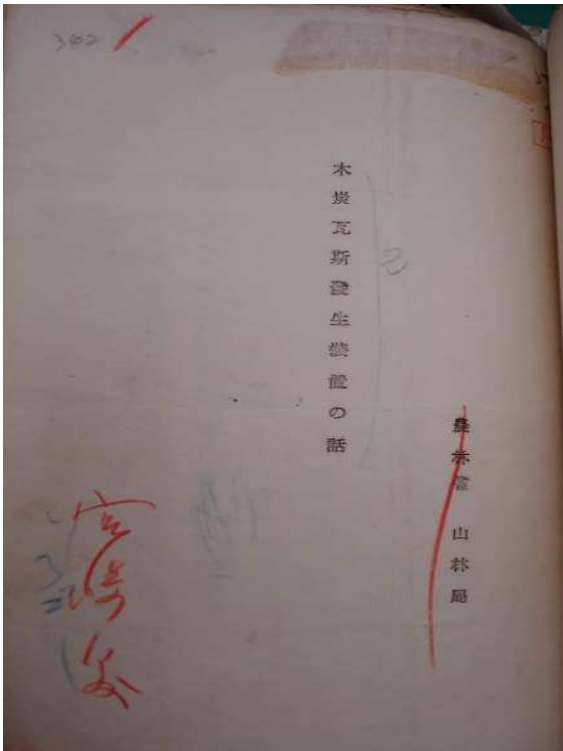
木炭ガス発生装置設置奨励規則制定に関する文書



写真資料は、昭和12年7月7日付けで農林省山林局長から宮崎県知事宛てに届いた文書の一部です。

木炭瓦斯発生装置設置奨励規則制定に関する件と題し、石油の代用燃料の振興、木炭の新規用途の一端として木炭ガス発生装置設置を奨励することなどが記載されています。

「木炭ガス発生装置の話」



左の「木炭瓦斯発生装置の話」は、農林省山林局が木炭ガス発生装置の普及奨励のために作成した資料を利用して、県が作成した「県民向け啓蒙普及のための資料」です。

木炭ガス発生装置の仕組みについて、次の項目でまとめられています。

- 『 一 液体燃料の節約と其の代用燃料
- 二 木炭瓦斯発生装置とはどんなものか
- 三 木炭瓦斯発生装置の発達の経過
- 四 木炭瓦斯発生装置の機能
- 五 木炭瓦斯発生装置は木炭の新規用途を開拓しガソリンの輸入を防遏し且つ動力費を節減する
- 六 結び 』

この中の『三 木炭瓦斯発生装置の発達の経過』で、日本で最初に製作されたのは浅川式、白土式と書かれていますが、昭和12年度までに農林省山林局の性能試験をパスしたのは12件でした。

その後、いろいろなガス発生装置が考案、実用化され、移動式としては、軌道機関車、貨物自動車、乗合自動車、乗用自動車等がありました。

木炭瓦斯発生機のパンフレットより

本センターで保存している簿冊には、各種各様のパンフレットがつづられています。

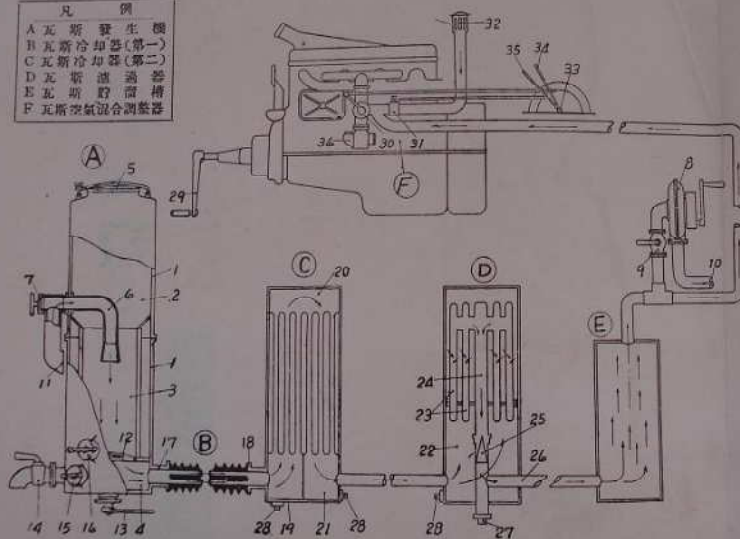
木炭ガスに関する簿冊の中にも、いくつかのパンフレットが保存されています。

ここでは、^{しらと}白土式木炭ガス発生機のパンフレットから一部抜粋して紹介します。



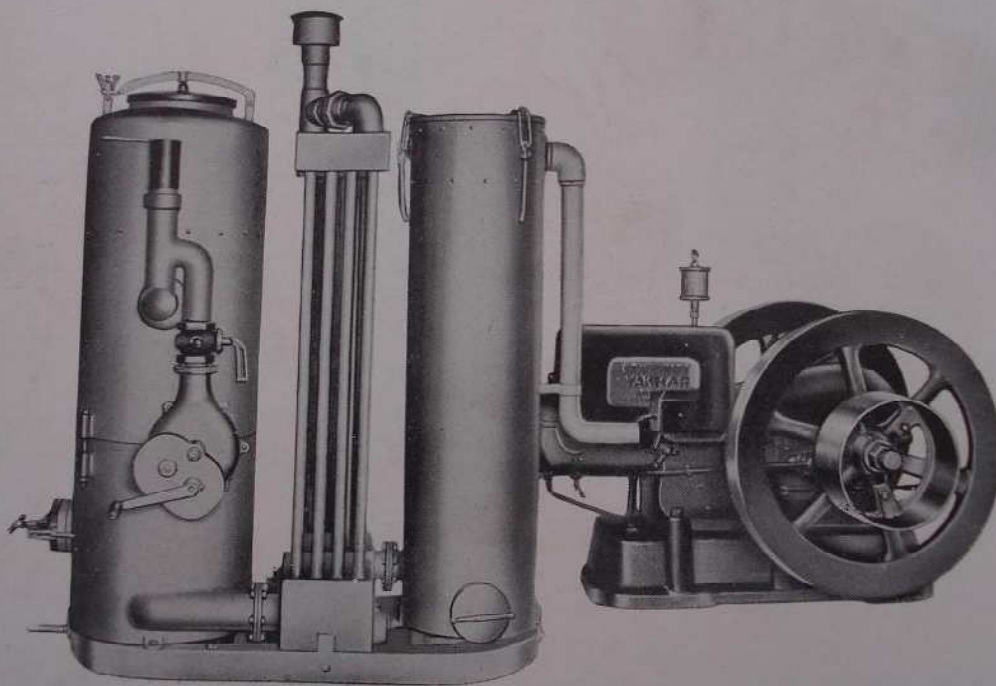
特許シラト式木炭瓦斯發生機説明圖

- 凡 例
- A 瓦斯發生機
 - B 瓦斯冷却器(第一)
 - C 瓦斯冷却器(第二)
 - D 瓦斯通過器
 - E 瓦斯貯留槽
 - F 瓦斯混合調整器



- 凡 例
- 1 瓦斯發生機
 - 2 瓦斯冷却器
 - 3 瓦斯冷却器
 - 4 瓦斯通過器
 - 5 瓦斯貯留槽
 - 6 瓦斯混合調整器
 - 7 瓦斯出口
 - 8 瓦斯入口
 - 9 瓦斯出口
 - 10 瓦斯入口
 - 11 瓦斯出口
 - 12 瓦斯入口
 - 13 瓦斯出口
 - 14 瓦斯入口
 - 15 瓦斯出口
 - 16 瓦斯入口
 - 17 瓦斯出口
 - 18 瓦斯入口
 - 19 瓦斯出口
 - 20 瓦斯入口
 - 21 瓦斯出口
 - 22 瓦斯入口
 - 23 瓦斯出口
 - 24 瓦斯入口
 - 25 瓦斯出口
 - 26 瓦斯入口
 - 27 瓦斯出口
 - 28 瓦斯入口
 - 29 瓦斯出口
 - 30 瓦斯入口
 - 31 瓦斯出口
 - 32 瓦斯入口
 - 33 瓦斯出口
 - 34 瓦斯入口
 - 35 瓦斯出口
 - 36 瓦斯入口

定置式木炭瓦斯發生機



本県での木炭ガス発生装置の利用

本県では昭和12年度に県内21か所21基について木炭ガス発生装置の奨励金交付の申請が行われています。内訳は、浅川式8、三浦式7、松岡式6になっており、その用途は、精米、精麦、製材、製板、製茶、製粉、灌漑揚水、芋麻剥皮、パルプ用チップ製作の動力でした。

また、この年には、山林局が各県担当者等を集めて技術講習会を開いていますが、本県からは、県農林の図師技手が「相当ナル予備知識を涵養シタ者」として参加しています。

歴史資料文書ではありませんが、宮崎交通が発行した『宮崎交通70年史』には次のように記述されています。「昭和13年には、現在の宮崎交通が奈良鉄工所（宮崎市）と協力して『宮崎バス式木炭ガス発生炉』を完成させ、時代の要請もあり普及しました。

宮崎交通では、この年の6月に30台、昭和18年には県内のバスすべてに木炭ガス発生炉を取り付け、木炭バスは終戦をはさんで昭和26年まで走り続けました。」

（『宮崎交通70年史』平成9年 宮崎交通株式会社発行）

戦後の宮崎のエネルギー事業

このほか戦後の宮崎の隠れたエネルギー事情を語る資料として「小水力発電並びに無電灯解消」（「県行政報告」雑書 昭和35年）があります。

昭和28年当時は、戦後の急速な開拓入植事業の推進もあって、無電灯戸数が9,407戸（集落1,196）を数えています。

この解消策としてとられたのが「小水力発電」でした。

宮崎のどこにでもある小さな谷川に発電所を設置して、この無電灯などの解消を進めたのです。

昭和28年度には、17か所の小水力発電所を設けています。

木炭同様、宮崎ならではの資源利用でした。

その他

木炭ガスバスは馬力が弱く、上りの坂道では乗客がバスから降りて、後ろから押したという話が残っています。

関連資料文書

文書センターには、木炭ガスに関する昭和10年から13年にかけての文書が保存されています。

【文書件名例】

- ・木炭に関する調査研究委託
- ・炭質調査依頼
- ・木炭に関する調査研究委託事業経費決算書
- ・木炭に関する調査研究事業施行
- ・標準木炭査定会報告
- ・昭和10年度 炭材林経営及び製炭事業収支関係調査
- ・昭和12年度 農村工業簡易製材所設置奨励
- ・昭和12年度 木炭ガス発生装置奨励事業並びに補助金交付に関する件